

交換留学報告書

* この報告書に記載される内容は多文化社会学部のウェブサイト等に記載いたしますので、予めご了承ください。

氏名	齋藤 朗子	学年(渡航時)	3
派遣先大学	ライデン大学		
国・地域	オランダ・ライデン		
派遣期間	2025	年 9 月 ~	2026 年 8 月

履修科目

1 学期目	
履修科目	授業内容
Beginners Course 1A Language Acquisition I	オランダ語初級の授業。教科書のテーマに沿って会話練習を軸に、スピーキング、リスニング、ライティング、語彙、文法を総合的に身につける。
Dutch Painting 1400-1950: Introduction to the Art History of the Netherlands, Cultuurwetenschap I	15世紀からモンドリアンまで、オランダと現在のベルギーにあたる地域の美術史の授業。主に絵画作品の歴史背景や技術、特徴などを学ぶ。
Culture and Society of the Netherlands; An Inside View	オランダ王国の成り立ちから気候、住宅問題、祝日の内容まで、オランダの文化・社会について学ぶ授業。
2 学期目	
履修科目	授業内容
Reading/Vocabulary 1B - Language Acquisition I	CEFRにおけるA2レベルからB1,B2レベルをめざすオランダ語の授業。毎週の語彙テストと様々な文献の読解。
Speaking/Listening 1B - Language Acquisition I	CEFRにおけるA2レベルからB1,B2レベルをめざすオランダ語の授業。ニュースの視聴や、ロールプレイでの会話練習。
Writing/Grammar 1B - Language Acquisition I	CEFRにおけるA2レベルからB1,B2レベルをめざすオランダ語の授業。毎週のライティング課題と文法の事前予習。授業では主に解説や該当する範囲の文法を使った会話練習を行う。
Arts and Material Culture of Japan	古代日本の仏教から村上隆の「スーパーフラット」まで、日本の美術や物質文化に関する日本学科の授業。

留学レポート(1,500 字以上)

私は海外における日本文化の浸透について新しい観点や価値観を取り入れることと、オランダ語の向上、そして一年間の滞在を通してオランダという国への理解を深めることを目的に、ライデン大学人文学部に一年間留学しました。

以前から日本の伝統工芸産業に興味があり、最近はインバウンドや海外輸出が産業を大きく支えていることから、日本の文化や伝統に対する海外からの視点に関心がありました。ライデン大学は世界で初めて日本学科が設置された由緒ある大学であり、6月には天皇陛下もご訪問されました。大学図書館には日本研究に関する書籍が数多所蔵され、キャンパス内には小さな日本庭園もあり、この留学を通して日本に興味をもつ学生たちとたくさん交流することができました。

日本学科の学生たちとの交流として、日本語を上達させたい日本学科のオランダ人学生と、オランダ語を上達させたい日本人の学生で「会話クラブ」という活動を行い、ゲームやピクニック、お出かけなどの楽しいアクティビティを通して言語交換をしました。また日本学科では定年退職したのちに再び大学に通うシニア学生の方も数人

見かけます。学期が終わった今でも、一人のシニア学生の方と週に一回ビデオ電話を通して言語交換を続けています。若い世代だけでなくシニア世代の日本への視点も知ることができるとは思っていなかったのが、貴重な体験になりました。

日本学科の学生の一人に、バディとして私の留学生活を支えてくれた友人もいます。私がオランダに到着した日は空港まで迎えに来てくれ、荷物を運んでくれたりスーパーでの買い物を手伝ってくれたり、右も左も分からない私を助けてくれました。また毎年アムステルダムとロッテルダムで開催されているという日本映画の上映イベントに誘われ、藍染めのドキュメンタリー映像と一緒に鑑賞しました。客席は私以外ほとんどオランダ人で埋まっており、想像以上に藍染めがオランダ人の興味を引いていることを実感し、伝統工芸に対する新たな価値観を得るいい経験となりました。ほかにも日本文化に関するイベントはオランダ各地で開催されており、大きなイベントであればバディは毎年足を運んでいるそうです。代表的なものとしてライデンでの Japanmarkt とアムステルフェーンでの Japan Festival があり、私はこの二つに主催者側の学生ボランティアとして参加しました。

Japanmarkt はライデンにあるシーボルトハウス博物館が主催となっており、和を感じる工芸品やアクセサリ、中古のランドセル、邦楽のレコードなど、様々な出店が運河沿いに並びます。私はほかの日本人留学生とともに、博物館館内で日本のゆるキャラを紹介するワークショップを行いました。子どもや家族連れを想定して準備を進めていましたが、予想以上に大人の方も興味をもってくださり、私自身の中にあつたステレオタイプにも気づくことができました。

Japan Festival は Japanmarkt よりも規模が大きく、出店だけでなくステージパフォーマンスや太鼓の体験ワークショップなどもあり、とても多くの人で賑わっていました。ステージでは三味線、日本舞踊、琴、空手、合気道、日本人学校の子どもの合唱・演奏、サックス、バンド演奏、盆踊りなど、日本人・オランダ人問わず様々なパフォーマンスが行われました。とくに、着物での日本舞踊とサックスのアニメ音楽ライブはより多くの人が集まっており、海外の人にとっての「日本らしさ」の形を目にしたように思います。

オランダでの一年間は、自分と向き合う時間もたくさんありました。留学中に得た学びや知識、経験をふまえて進路や伝統工芸産業にどう貢献していくか、自分なりに深く考えることができました。この経験を活かし、これからも広い視野と柔軟な思考を大切にしていきたいです。

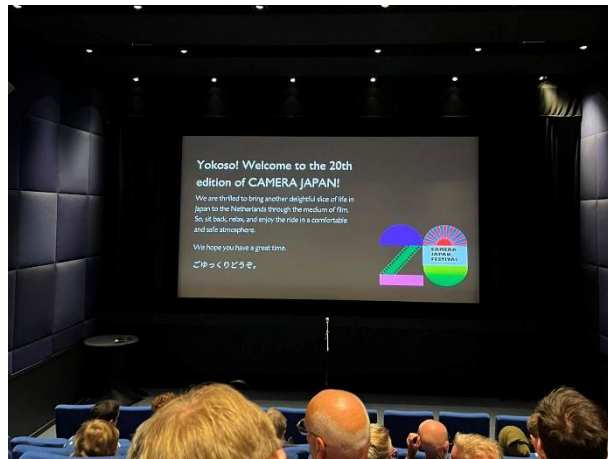
留学中の写真(10枚程度) ※写真のキャプションをファイル名にすること。



オランダ人アーティストによる作品とハンドメイドかんざし



キャンパス内の日本庭園



日本映画の上映イベント



Japanmarkt でのランドセル販売



レンブラント『夜警』(国立美術館)



天皇陛下 ライデン大学御訪問